

第二期

未

来

創

造

塾

大分都市広域圏



大分都市広域圏 政策研究チーム「第2期未来創造塾」

2022 政策提案報告書

取組期間 令和3年5月21日～令和5年3月31日

人と地域を未来につなぐ大分都市広域圏

～温泉や南蛮文化など多彩な地域資源を活かした創造都市圏を目指して～

目 次

■ 本 編

- P. 1 ～はじめに～ 連携中枢都市圏構想について
・「連携中枢都市圏構想」の概要について
- P. 2 ～はじめに～ 大分都市広域圏の形成
・「大分都市広域圏」の概要について
- P. 3 大分都市広域圏政策研究チーム「第２期未来創造塾」
・「未来創造塾」の構成について
・「第２期未来創造塾」開講式
・第１回「未来創造塾」会議の開催
- P. 5 「第２期未来創造塾」活動経過
・「第２期未来創造塾」活動経過
(令和３年６月～令和３年１０月)
・大分県総務部長による講話と意見交換会(令和３年７月２８日)
・臼杵市長による講演と意見交換会(令和３年１０月５日)
・令和３年度大分都市広域圏推進会議で中間報告
(令和３年１１月５日)
・一般社団法人 構想日本 伊藤 伸 様による講演
(令和４年２月２５日)
・「第２期未来創造塾」活動経過
(令和３年１１月～令和４年９月)
- P. 12 令和４年度大分都市広域圏推進会議で政策提案
(令和４年１１月４日)
・Ａチーム政策提案「産学官タスクフォース塾」
「出会いが導く企業マッチングフェス」
・Ｂチーム政策提案「出会い・交流について～
大分都市広域圏 結婚応援パスポート～」
「人材育成について
～公務員の“フクギョウ”
に関する調査研究～」

■ 資料編

- | | | |
|----|----|--------------------------------------|
| P. | 29 | 大分合同新聞掲載記事 |
| P. | 31 | Aチーム“E n” j o y n（エンジョイン）プロフィールと感想 |
| P. | 33 | Bチーム キャスティング（c a s t i n g）プロフィールと感想 |
| P. | 35 | 「第2期未来創造塾」塾生名簿（令和4年11月4日時点） |
| P. | 36 | 大分都市広域圏ホームページ |
| P. | 37 | 大分都市広域圏政策研究チーム「未来創造塾」設置要綱 |

～はじめに～

連携中枢都市圏構想 について

● 平成26年5月 地方自治法の改正により「新たな広域連携」の制度を創設

人口減少・少子高齢社会にあっても、地域を活性化し経済を持続可能なものとし、国民が安心して快適な暮らしを営んでいけるようにするために、地域において、相当の規模と中核性を備える圏域の中心都市が近隣の市町村と連携し、コンパクト化とネットワーク化により「経済成長のけん引」、「高次都市機能の集積・強化」及び「生活関連機能サービスの向上」を行うことにより、一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成する政策として国が提唱しています。

この制度は第30次地方制度調査会「大都市制度の改革及び基礎自治体の行政サービス提供体制に関する答申」を踏まえて制度化したものであり、大分都市広域圏は2016（平成28）年3月に全国で10番目の圏域として形成されており、2022（令和4）年4月1日現在では、全国で37の圏域が形成されています。

「連携中枢都市圏構想」の概要について

● 令和4年4月時点で、全国で37圏域が形成されている。

連携中枢都市圏の取組の推進

連携中枢都市圏の意義とは

- 地域において、相当の規模と中核性を備える圏域において市町村が連携し、コンパクト化とネットワーク化により、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成

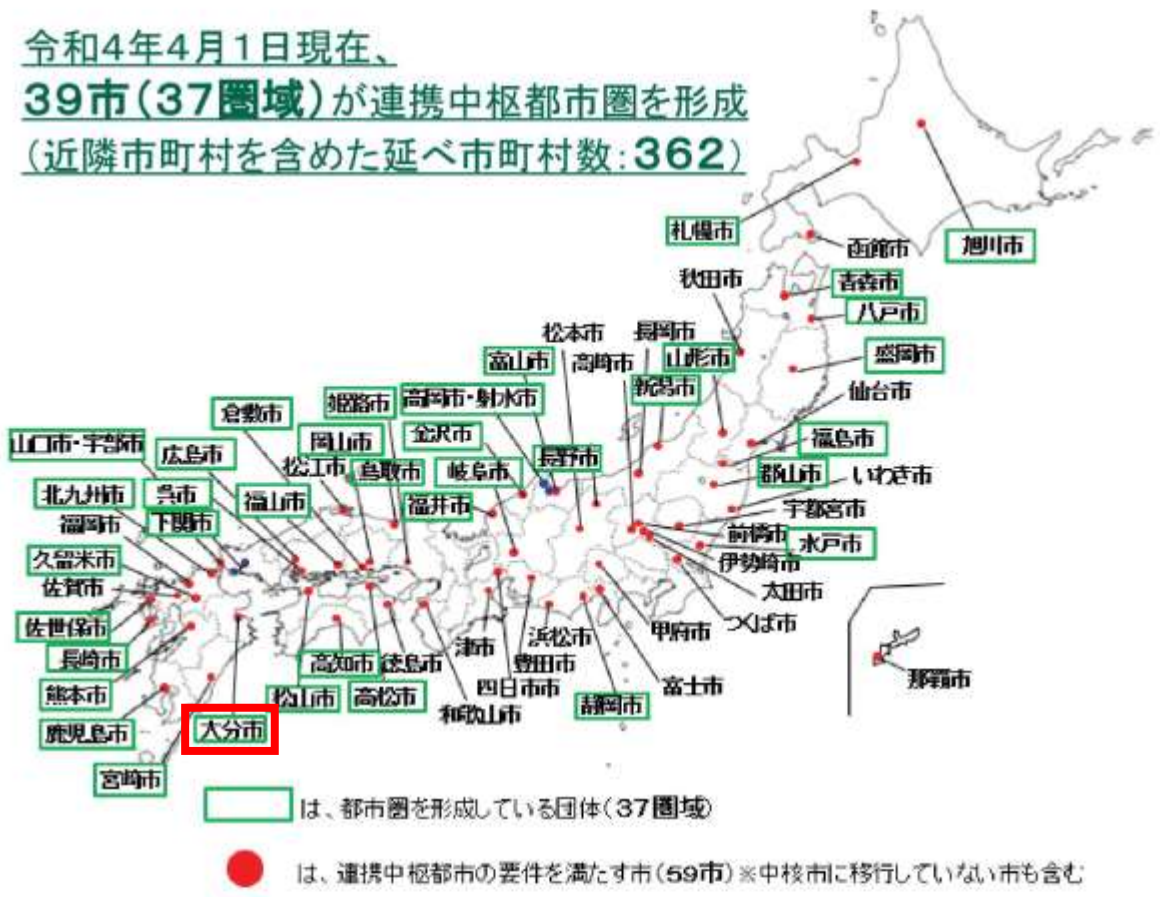
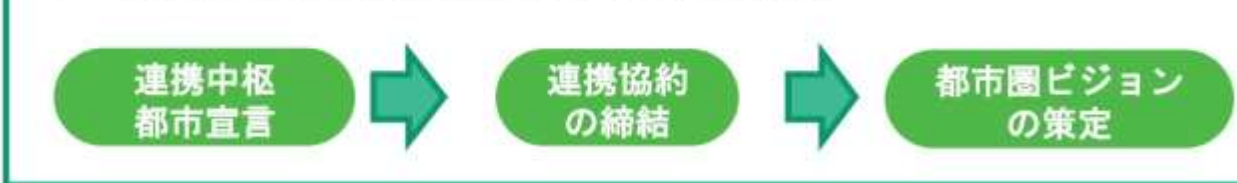
連携中枢都市圏に何が求められているのか

- ① 圏域全体の経済成長のけん引
産学官の共同研究・新製品開発支援、六次産業化支援 等
- ② 高次の都市機能の集積・強化
高度医療の提供体制の充実、高等教育・研究開発の環境整備 等
- ③ 圏域全体の生活関連機能サービスの向上
地域医療確保のための病院群輪番制の充実、
地域公共交通ネットワークの形成 等

連携中枢都市圏をいかに実現するか

- 地方自治法を改正し、地方公共団体間の柔軟な連携を可能とする「連携協約」の制度を導入（平成26年11月1日施行）
- 平成26年度から、連携中枢都市圏の形成等を推進するため、国費により支援
- 平成27年度から、地方交付税措置を講じて全国展開

➢ 連携中枢都市圏形成のための手続き



【連携中枢都市圏とは】
地方圏において、昼夜間人口比率おおむね1以上の指定都市・中核市と、社会的、経済的に一体性を有する近隣市町村とで形成する都市圏

※ただし、隣接する2つの市（各市が昼夜間人口比率1以上かつ人口10万人程度以上の市）の人口の合計が20万人を超え、かつ、双方が概ね1時間以内の交通圏にある場合において、これらの市と社会的、経済的に一体性を有する近隣市町村とで形成する都市圏についても、連携中枢都市圏と同等の取組が見込まれる場合においては、これに該当するものとする。

出典：総務省ホームページ

～はじめに～

大分都市広域圏の形成

国の「連携中枢都市圏構想」に沿い、大分市、別府市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市、由布市、日出町の7市1町は、大分市を圏域の中心市として、2016（平成28）年3月、新たに「大分都市広域圏」を形成し、これまで「大分都市広域圏観光PR事業」や「おおいた公共施設案内・予約システムの運用」等、様々な広域連携事業を実施してきました。

「大分都市広域圏」の概要について

- 【名 称】 大分都市広域圏
- 【構成市町】 大分市、別府市、臼杵市、津久見市、竹田市
豊後大野市、由布市、日出町 （7市1町）
- 【人 口】 757,715人（令和2年の国勢調査人口による）
- 【計 画】 第2期大分都市広域圏ビジョン
- 【取組期間】 2021（令和3）年4月
～
2026（令和8）年3月 の5年間



※ 2016（平成28）年4月から2021（令和3）年3月までの5年間は、「大分都市広域圏ビジョン」に基づき、取組を実施した。

大分都市広域圏の取組

圏域形成に至った経緯

- ・大分市の周辺市町である別府市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市、由布市、日出町の7市1町で、人口減少社会においても有機的な連携による活性化を図る目的で、各市町が単独では解決できない課題等について協議を行った。
- ・総務省「新たな広域連携モデル構築事業」モデル都市に選定され、大分都市広域圏推進会議等で協議を重ねて、平成28年3月に連携する7市1町と連携協約の締結及び大分都市広域圏ビジョンの策定を行った。

今後の展開

- ・引き続き各専門部会で協議し新規事業の構築や既存事業のブラッシュアップを行っていくとともに、実績の少ない取組項目については、連携市町と積極的に協議を行っていく中で事業の掘り起しを進めていく。
- ・31連携事業のフォローアップとさらなる推進を実施し、KPIの達成に向けて取り組みを進める。
- ・社会情勢等の変化を踏まえ、「第2期大分都市広域圏ビジョン」（取組期間：令和3年4月～令和8年3月）を令和2年度に策定した。



圏域全体の経済成長のけん引	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
歩行者天国実施事業 大分駅北側を南北に走る市道を歩行者天国として活用し、イベント等の開催や、連携市町の観光情報等のPRや特産品等の販売を行うブースを設置することにより圏域の情報発信を行った。 【令和3年度2回実施 来場者数約20,000人】 	消防指令業務の共同運用 消防指令業務の共同運用を行うことで設備・運用に係る財政・人員負担の軽減に加え、災害情報・活動情報の一元管理による相互応援の迅速化等を目指すもの。圏域市町を含む全県1区で、令和6年4月の稼働を目指す。 
海外販路拡大支援事業 販路開拓に関する会員間の意見・情報交換、県内外の団体や企業との交流、国内・海外現地視察の実施等を検討する。 コロナを取り巻く状況や日本国内及び海外各国の動向を注視しながら、オンラインとオフラインを効果的・効率的に使い分けた事業の検討・実施を目指す。	おおいた公共施設案内・予約システムの運用 圏域内の体育・文化施設等を相互に利用できるような公共施設案内・予約システムを導入した。令和4年4月時点で体育施設68箇所、文化施設等30箇所がシステム登録されている。 
高次の都市機能の集積・強化	未来創造塾 圏域で抱える課題について圏域の若手職員がチームを作り、自主的に調査・研究を行い、課題解決に向けた施策の提案を圏域の首長会議で行った。 
災害時受援計画策定事業 災害時受援計画等に関する防災の取組状況を共有。	一般廃棄物処理施設(新環境センター)整備事業 大分市が予定する新たな一般廃棄物処理施設(新環境センター)の整備について、圏域6市から構成される専門部会を設置し、平成29年度から広域処理に向けて検討をはじめ、令和9年度中の稼働開始を目指す。

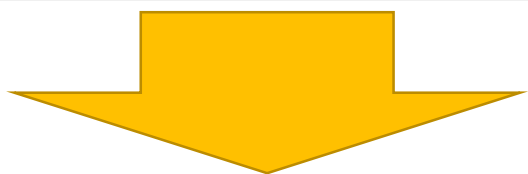
出典：総務省ホームページ

大分都市広域圏 政策研究チーム「第2期未来創造塾」

「大分都市広域圏ビジョン」に掲げる「人材育成・交流」事業として、圏域で抱える課題について自主的に調査・研究を行い、課題解決に向けた施策の提案を行うこと、また、これにより圏域の将来を担う人材の育成を目的とし、政策研究チーム「第2期未来創造塾」を令和3年5月に立ち上げました。

「未来創造塾」の構成について

- 【対象職員】 概ね35歳以下の職員
- 【構成人員】 大分都市広域圏の連携市町全体で16名（各市町2名ずつ選出）
- 【所掌事務】 若手職員による政策研究チームが圏域で抱える広域的な課題や全国の先進的な取組について、自主的に調査・研究を行い、その課題解決に向けた事業提案を行う。
※ なお、首長が出席する大分都市広域圏推進会議において提案事業が採択された場合、連携市町の担当部局において事業の実施に向けた取組を推進する。
- 【塾生任期】 令和3年5月～令和5年3月末日（2年を1期間とする）
- 【チーム編成】 大分都市広域圏の連携市町全体で2チーム



16名 による「第2期未来創造塾」がついに開講！

「第2期未来創造塾」開講式（令和3年5月21日）

令和3年5月21日、大分市役所で大分都市広域圏推進会議の会長市である久渡 晃 大分市 副市長の開講宣言のもと、塾長（大分市企画課長 小野 晃正）と7市1町の16名の塾生で構成される「第2期未来創造塾」が開講しました。



大分都市広域圏 政策研究チーム「第2期未来創造塾」開講式

開講式では、塾生代表で竹田市の佐藤さんが塾生の辞令を受けとり、その後、津久見市の川野さんが未来創造塾の塾生として、今後2年間に向けた力強い決意表明を行いました。



大分市副市長から辞令を受け取る
佐藤さん（竹田市）



決意表明を述べる
川野さん（津久見市）



開講宣言をする大分市副市長

第1回「未来創造塾」会議の開催（令和3年6月10日）

開講式の後、さっそく第1回目の未来創造塾を開催しました。

今回は、初回であるため、塾長から大分都市広域圏の形成などについて講話をもらい、その他事務局からの説明等の後、2年間ともに調査・研究するチームに分かれて自己紹介を行いました。その後、塾生の皆さんで意見交換会（交流会）を行いました。



塾長（大分市企画課長）による講話



塾長の講話を聴く塾生

各チームのリーダーは、**Aチームは大分市の三苦さん**、**Bチームは別府市の五十川さん**に決定。

次回の会議の日程や研究テーマの決定方法などについてリーダーを中心として約2時間の協議を行いました。



大分市 三苦リーダー



Aチームの会議の様子



別府市 五十川リーダー



Bチームの会議の様子

「第2期未来創造塾」活動経過

《 調査研究の進め方 》

- ・ 月1回程度集合し、会議を行う。
- ・ 日時や場所等は、業務の都合に合わせ、塾生が決める（塾生同士の主体的な集まり）。
- ・ 事務局（大分市企画課）は、2カ月に1回程度、進捗状況の管理を行う。
- ・ 会議開催後、すみやかに報告書をまとめ事務局に提出する。

「第2期未来創造塾」活動経過（令和3年6月～令和3年10月）

● 調査研究テーマの方向性を決める

塾生が自分で考えた研究テーマをプレゼンテーションし、チーム内でその事業について質疑応答を行い、最終的に各チームで研究テーマの大きな枠組みを決定しました。圏域で抱える広域的な課題の解決に向けて、まずは研究テーマに沿って、各市町の現状把握と調査分析をしていくことになりました。



Aチーム（“En” join）の会議の様子



Bチーム（キャスティング）の会議の様子

● 各チームの名称が決まる！！

Aチームの名称は「**“En” join**」（エンジョイン）に決定

“喜び”の意味である「**j o y**」と“繋がり”を表す「**j o i n**」に人と地域の繋がり（＝**縁**）、経済を回す（＝**円**）を大切にしたいという思いから、「**En**」を組み合わせ「**“En” join**」としました。私たちがパイプ役となり大分がもっと元気あふれる街になるよう政策を提案したいと考えています。

また、このチームに出会えた繋がり感謝し、仲間とともに楽しみながら（enjoy）研究をしていきたいという思いも込められています。

Bチームの名称は「**キャスティング**」に決定

キャスティング（配役）する様に、広域課題に合う事業をリサーチ提案し、現場に起用するという思いから決めました。また、メンバーのイニシャルも含まれています。

C a：川野、河野、亀井、河村 **S**：佐田、佐藤 **T**：豊田 **I**：五十川 **N**：中原 **G**：グループ

大分県総務部長による講話と意見交換会（令和3年7月28日）

令和3年7月28日、大分市役所にて、大分県和田総務部長から講話を頂き、その後意見交換を行いました。



和田 雅晴 大分県総務部長



大分県総務部長との意見交換

現総務省から来られている大分県総務部長 和田雅晴 氏を講師にお招きして「これからの自治体経営について思うこと」と題して講話を頂きました。

国の財政や地方の財政について、シンプルに分かりやすく教えていただき、30年後、50年後を見据えて行政運営していくことは簡単ではないけれども、何が住民のためになるのかということをしっかり考えて取り組んでいくことは仕事としてやりがいもあり楽しく働いていけるのではないだろうか、とお言葉を頂きました。



大分県和田総務部長との記念撮影

政策提案に向けて、さらに塾生のモチベーションが高まりました！ 大分県和田総務部長、大変お忙しい中、貴重なアドバイスをいただきまして、ありがとうございました！！

臼杵市長による講演と意見交換会（令和３年１０月５日）

令和３年１０月５日、中野 五郎 臼杵市長より「臼杵のまちづくりの課題と方向～若い職員に期待すること～」と題して講演をいただきました。ご自身の自治体行政の経験もふまえ、今後の自治体運営で若手職員に求められることなど、貴重なアドバイスをいただきました。



中野市長との意見交換



中野 五郎 臼杵市長



中野市長との記念撮影

市職員の経験を踏まえたお話もいただくことができ、ちょうど１か月後にせまった中間発表に向け、どのような視点を持って臨めばよいか心構えができました。

併せて、住民から信頼と期待をいただくことができる職員になれるよう、研鑽を磨き続けることの大切さも教えていただき、ありがとうございました！！

「第2期未来創造塾」活動経過（令和3年6月～令和3年10月）

● 圏域内の自治体で会議を開催！！

月1回の定例会議を、圏域内の各自治体で開催するとともに、オンライン会議でも実施しました。
新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、様々な制限がありましたが、普段とは異なる環境下において、様々な発想や自由闊達な意見交換が行われ、充実した研究活動となりました。



オンラインでの会議の様子



対面での会議の様子

令和3年度 大分都市広域圏推進会議で中間報告（令和3年11月5日）

令和3年11月5日に開催された各市町が集まる首長会議の中で、各チームのリーダーがテーマ設定などについて中間報告を行いました。また、令和4年度の政策提案に向けたスケジュールが示されました。

【会 議 名】	令和3年度 大分都市広域圏推進会議
【開 催 日】	令和3年11月5日（金）10時～
【開催場所】	ホテル日航大分オアシスタワー 5階 孔雀の間



Aチーム（“En”join）大分市の三苦リーダー



Bチーム（キャスティング）別府市の五十川リーダー

● 中間報告の資料

第2期未来創造塾(A班)の中間報告資料 【チーム名】“En”joyn (読み方: えんじょいん)

チーム名について

“喜び”の意味である「joy」と“繋がり”を表す「join」に人と地域の繋がり(=縁)、経済を回す(=円)を大切にしたいという思いから、「En」を組み合わせ「“En”joyn」としました。私たちがパイプ役となり大分がもっと元気あふれる街になるよう政策を提案したいと考えています。

また、このチームに出会えた繋がり感謝し、仲間とともに楽しみながら(enjoy)研究をしていきたいという思いも込められています。

研究テーマについて

当初、私たちのチームでは「圏域外から人を呼び込み、大分に住んでもらう」ための研究をテーマとし議論を行ってきました。しかし、移住・定住は全国的にも難題であり対象となる年齢層が広く、また、県の人口推計によると20～24歳の人口において転出超過の状況が顕著にみられたため調査対象を若年層に決めました。その後議論を重ねた結果、「学生の圏域内就職率の向上について」研究を行っていくこととなり、テーマを以下の2点に絞りました。

テーマ①：学生の圏域内就職率の向上に資するための政策【人口流出の防止】について

学生の圏域内就職率は全国から見ても低く、要因として就活生が必要としている情報が不足していることや就活イベント等の多くがオンラインに変化したため企業と学生とのコミュニケーションが図りにくいことが関係しているのではないかと意見がでました。そこで、学生が圏域内で就職を希望するような仕組みを研究していきたいと考えています。例えば、「圏域内で働きたい」と思わせるような労働条件以外の魅力を見出すきっかけづくりや、学生自身が圏域内で起業できる仕組みづくりなど、学生を主体とした研究を進めています。

テーマ②：就労に繋がるようなSNS等を利用した情報発信の仕組みづくりについて

現代においてインターネットツールは必需品であり、特に若年層は情報収集の手段としてSNSを多く活用します。また、コロナ禍を機にSNS等での情報発信をする企業も増えています。そこで、学生および企業等が求めるニーズを調査研究したうえで、より効果的な仕組みづくりを研究していきます。

チーム構成員

姫野 啓太郎 (臼杵市) 川野 貴志 (津久見市) 後藤 悠太 (由布市) 赤嶺 哲平 (豊後大野市)
白石 翔 (竹田市) 中洲 夏海 (日出町) ◎三苫 里奈 (大分市) ○中野 憲汰 (別府市)
◎リーダー ○副リーダー

第2期未来創造塾(B班)の中間報告資料 【チーム名】：キャスティング

チーム名について

キャスティング(配役)する様に、広域課題に合う事業をリサーチ提案し、現場に起用するという思いから決めました。また、メンバーのイニシャルも含まれています。

Ca：川野、河野、亀井、河村 S：佐田、佐藤 T：豊田 I：五十川 N：中原 G：グループ

イメージキャラクター
キャスミちゃん



研究テーマについて

我々のチームは、それぞれの市町での課題や取組みを調査していく中で、人口減少や少子高齢化が進む社会において、市町で抱える共通の課題や取組みが多いことが分かりました。研究テーマを絞るために、各々で興味がある分野を2つ発表し、多数共感した分野を研究テーマとして選びました。

テーマ①：人材育成について

「人材育成」について、研究や会議を重ねるにつれ、分野が広く、話が行き詰まる場面もあったため、職員向け・市民向けさらには既存のスキルアップを図るのか、新しいスキルを求めているのか整理しながら、研究していくことにしました。

今まで会議の中では、「公務員の副業・プロボノ支援」、「子どもの勤労体験・金銭教育(キッズニア等)」等、議論・検討していきました。「公務員の副業・プロボノ支援」については、独自の規定を整備し、副業を促進している先進的な自治体があるため、大分都市広域圏でもガイドラインや副業を促進できるような取組みをできないか検討しております。

テーマ②：出会い・交流について

「婚活」は、チームメンバーの興味・関心の高い分野であり、既に市町独自で事業を行っているところもありましたが、「結婚」だけにとらわれない施策の検討が必要であるため、テーマを「出会い・交流」としました。市町の課題として、イベントを開催しても人が集まらない、地元のイベントには参加しづらい等の意見がありました。民間の企画力等を活かしたイベントや仕組みを主軸とする中で、行政として関与できる要素がないか検討してまいります。大分都市広域圏で、新たな出会いや交流の場を増やし、更には地域の魅力を発信することができないか研究していきます。

チーム構成員

川野 聖二 (日出町) 河野 はるか (由布市) 亀井 三佳 (臼杵市) ○佐田 早織 (豊後大野市)
佐藤 史織 (竹田市) 豊田 将也 (津久見市) ◎五十川 貴盛 (別府市) 中原 健太郎 (大分市)
◎リーダー ○副リーダー



一般社団法人 構想日本 伊藤 伸 様による講演（令和4年2月25日）

令和4年2月25日、一般社団法人 構想日本 総括ディレクターの伊藤 伸 様より「自分ごと化会議～基礎自治体として取り組むべき課題と中央省庁における政策立案について～」と題してオンライン講演をいただきました。講演後には塾生の積極的な質問にも丁寧に答えていただき、政策立案の貴重なアドバイスとなりました。



講演の様子



一般社団法人 構想日本 伊藤 伸 様

一般社団法人 構想日本 伊藤 伸 様の中央省庁の経験も交えたお話をいただき、政策立案に必要な考え方を学ぶことができました。

貴重な講演をいただき、ありがとうございました！！

大分市 第2期未来創造塾

自分ごと化会議

私に関係ある？ ある！

基礎自治体として取り組むべき課題と中央省庁における政策立案について

あなたも当たるかもしれない、「くじ引き民主主義」の時代へ
～自分ごと化会議のすすめ～

2022年 2月 25日
構想日本 総括ディレクター／内閣府政策参与
伊藤 伸

これからの自治体経営について思うこと

R3.7.28
大分県総務部長 和田 雅晴

府京都市出身
入省
県
保健保険課
県
道府県税課
企画課
管理監
高齢者対策課長
課長
三化委員会事務局参事官補佐

・外形標準課税の導入
・所得税から個人住民税への税源移譲

大分都市広域圏政策研究チーム
第2期未来創造塾

白杵のまちづくりの課題と方向
～若い職員に期待すること～

大分県白杵市長 中野 五郎

令和3年10月5日（火）13:30～15:00
白杵市役所 白杵庁舎1階 大会議室

日本の心が息づくまち白杵～「おだやかさ」と「たくましさ」を未来へつなぐ～ ©2021 Usuki City

「第2期未来創造塾」の活動経過（令和3年11月～令和4年9月）

● 新型コロナウイルス感染症による影響

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、オンラインでの会議も増える一方で、一堂に会する会議が減り、生活様式も変化する中で調査・研究を進めてきました。令和4年夏季に訪れた第7波では、withコロナ社会へ移行しました。

● 政策提案について具体化を進める

令和4年11月の大分都市広域圏推進会議での政策提案に向けて、具体的な提案内容の検討を進めました。圏域が抱える広域的な課題に対する解決方法や手法について、Aチームでは大分大学の学生やおおいた地域連携プラットフォームへのアンケート等を実施し、Bチームでは新潟市や神戸市の取組を視察し、各市町の関係部署に相談や情報収集をする等、気合を入れて、最後の追い込みに全集中です。



新潟市の「結パスポート事業」視察（Bチーム）



Bチーム（キャスティング）の会議の様子

● 政策提案に向け、最終調整！ 塾長ヒアリングを実施！

令和4年8月24日、大分市に参集し、塾長がヒアリングを行いました。発表当日の政策提案に関する疑問や不安要素が解消できたことで、いよいよ本番に向けて体制が整いました！プレゼン資料の磨き上げに全力を注いでいきます！



塾長からヒアリングを受ける第2期未来創造塾生たち



令和4年度大分都市広域圏推進会議で政策提案（令和4年11月4日）

令和4年11月4日、ついに政策提案の本番当日を迎えました。発表をする両班のリーダーは、やや緊張した面持ちで各市町の首長に政策提案を行いました！

【会 議 名】	令和4年度 大分都市広域圏推進会議
【開 催 日】	令和4年11月4日（金）10時00分～
【開催場所】	ホテル日航大分オアシスタワー 5階 孔雀の間

● 若手職員らしい自由な発想で斬新な政策提案に！



政策提案の様子



政策提案の会場の様子



政策提案の会場の様子

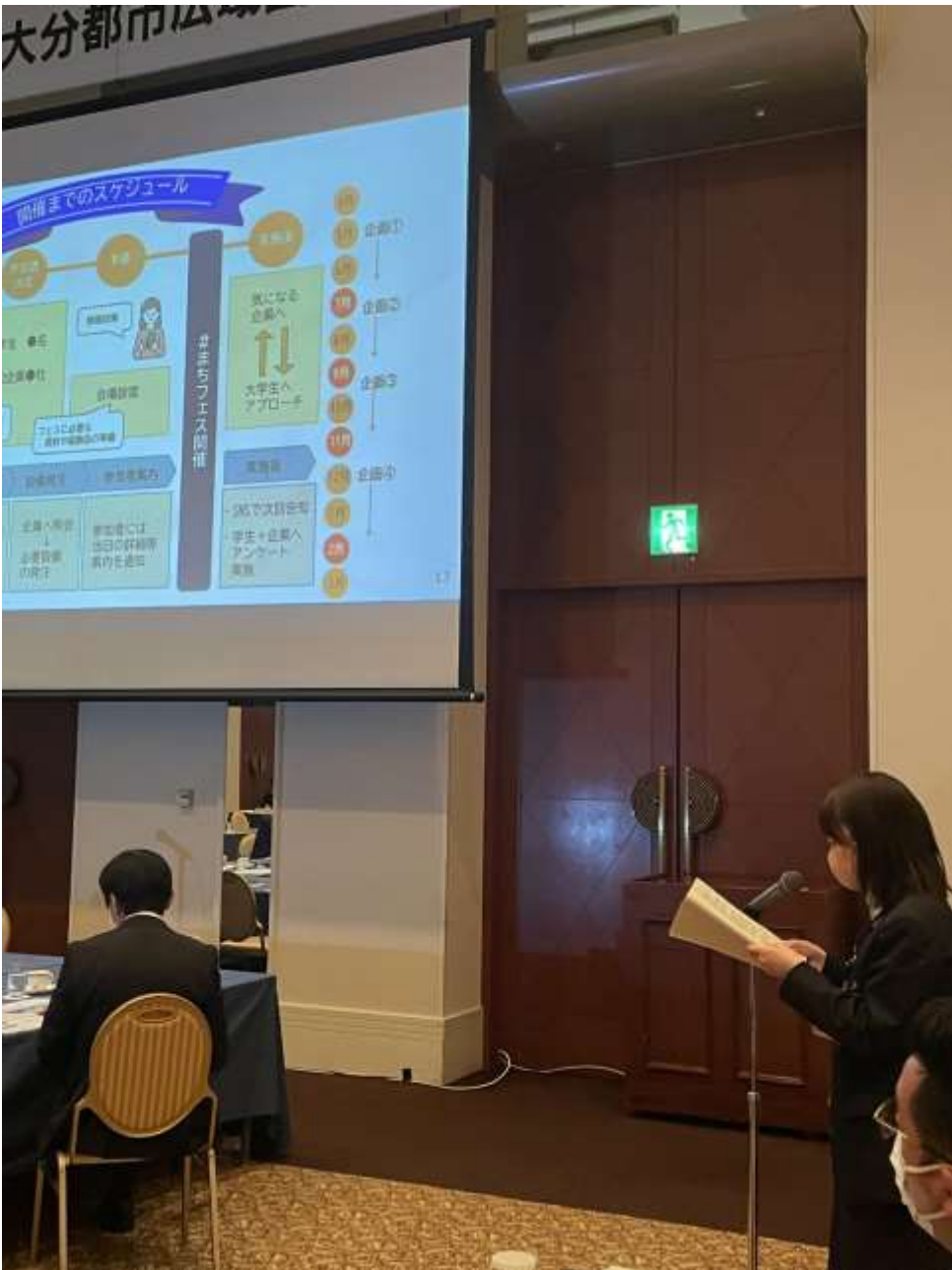


政策提案の会場の様子

● 各班の政策提案のテーマについて

Aチーム “E n” j o y n)	・ 「産学官タスクフォース塾」 ・ 「出会いが導く企業マッチングフェス」
Bチーム (キャスティング)	・ 「出会い・交流について～大分都市広域圏 結婚応援パスポート～」 ・ 「人材育成について～公務員の“フクギョウ”に関する調査研究～」

● 政策提案の様子



政策提案を行うAチーム（“E n” j o y n）
大分市 三苦リーダー



政策提案を行うBチーム（キャスティング）
別府市 五十川リーダー



Aチーム（“E n” j o y n）記念撮影



政策提案を行うBチーム（キャスティング）
大分市 中原さん



Bチーム（キャスティング） 記念撮影

両チームとも、政策提案が無事に終了しました！各市町の首長から今後の事業化に向けたアドバイスや未来創造塾の取組姿勢に対して、高い評価をいただき、盛大な拍手により会議が終了しました！

塾生の皆さん、長期に及ぶ調査・研究、大変お疲れ様でした！